

加賀電子株式会社

個人投資家様向け会社説明会

2020年2月21日

加賀電子株式会社

常務取締役
管理本部長 川村 英治

目次

- **加賀電子について**
 - 会社概要・フィロソフィー・沿革・事業領域 P- 3～7
 - 富士通エレクトロニクスの買収 P- 8～9
 - 加賀電子グループの強み P- 10～12

- **加賀電子成長シナリオ**
 - 中期経営計画 2021 P-14～18

- **加賀電子グループのEMS事業**
 - EMSの強み P-20
 - 主要生産拠点/主な生産品目 P-21～25
 - 重要テーマ/具体的アクション P-26～27

- **加賀電子CSR・株主還元**
 - 加賀電子グループのCSR活動 P-29
 - 株主還元・株価推移 P-30～31

- **参考データ：直近の会社業績、その他**
 - 2020年3月期第3四半期業績 P-33～35
 - 2020年3月期業績予想 P-36～37
 - その他 P-38～43

某テレビ通販 フライパンセット

毎日のお料理で大活躍 *Bellfina* ダイヤモンドパンダランドセット

- 焼く
- 炒める
- 煮る
- 茹でる
- 揚げる
- 炊く
- 蒸す

スタンド式ガラス蓋25・20cm

無水調理-オープンまで
無水調理鍋22cm

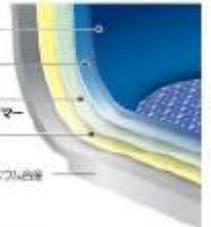
ツルツルで焦げ付きくい！
後片づけもラクラク♪

ブルーダイヤモンドコーティング

内側は特殊4層ブルーダイヤモンドコーティングで、こびり付きが少なく、お手入れがとっても簡単です。

クレストック
ミッドコーティング
ニードプライマー
コーティング
ダイヤモンドプライマー
コーティング

アルミコア合金



ダイヤモンドエンボスデザイン

食材の接触面を減らし、エンボスの間に食材の油・水分が溜り込むことで、よりこびり付きにくくを実現します。



メイン調理には
ダイヤモンドマルチパン25cm

ちょっと焼きに
ミニフライパン20cm

盛り付けをおまかせ
スプーンターナー

ヘリコプター



加賀電子について

- 会社名 加賀電子株式会社
(英文 : KAGA ELECTRONICS CO., LTD.)
- 代表者 代表取締役会長 塚本 勲
代表取締役社長 門 良一
- 本社所在地 東京都千代田区神田松永町20番地
- 設立 1968年(昭和43年)9月12日
- 資本金 121億33百万円
- 上場市場 東証1部(証券コード:8154)
- 連結売上高 2,927億円(2019年3月期)

会社名の由来

石川県金沢市出身の創業者塚本勲が、会社設立時に社名について両親に相談したところ、母からの「加賀百万石出身だから加賀電子は？」という提案を受けて命名されました。



創業者・
代表取締役会長
塚本 勲

代表取締役社長
門 良一

企業理念

すべてはお客様のために

ビジネスモデル

独立系、ワンストップサービスの
エレクトロニクス総合商社

行動指針

F.Y.T.

Flexibility = 柔軟な対応

Young = 常に若々しく

Try = 果敢に挑戦

3G

General = あらゆるものを

Global = 全世界で

Group = 総合力を活かして

加賀イズム

会社設立以来、創業者や諸先輩の経験に裏打ちされた宝とも言うべき数多くの『語録』。日々の**競争を勝ち抜いていくための我々の行動の『拠り所』**として、将来にわたって継承。

加賀イズムの3本柱	基本精神
1. 経営マインド 「全員が経営者」であるという意識をもった行動	1-1. 壮大な夢と強い思いをもった経営者たれ
	1-2. ハングリー精神をもってチャレンジし続ける
	1-3. 強い思いをもって、まずは行動
2. 営業マインド 「商社マン・ビジネスマン」としてもつべき意識と行動	2-1. TAXAN努力し、TAXAN儲けてTAXAN幸せになる
	2-2. 人脈は無形の財産
	2-3. 常に、旺盛な好奇心を持ち続ける
3. 社会人としての心構え 社会人として仕事を進める上での意識と行動	3-1. 自己研鑽
	3-2. 信賞必罰
	3-3. 公明正大

資本金100万円で
「加賀電子株式会社」設立
(東京都千代田区外神田)



«1981年 海外進出»
TAXAN (USA)
アメリカ合衆国に設立



«1992年 EMS事業を開始»
KAGA (H.K.)
香港に設立



«2014年»
創業の地、東京・秋葉原に
新本社ビル建設



コダック社製品の
国内総販売代理店権獲得



売上高5,000億円
(中期経営計画目標)

アップル社製品の
国内販売事業開始



アップル用
自社ブランドモニター
「KG-12」発売



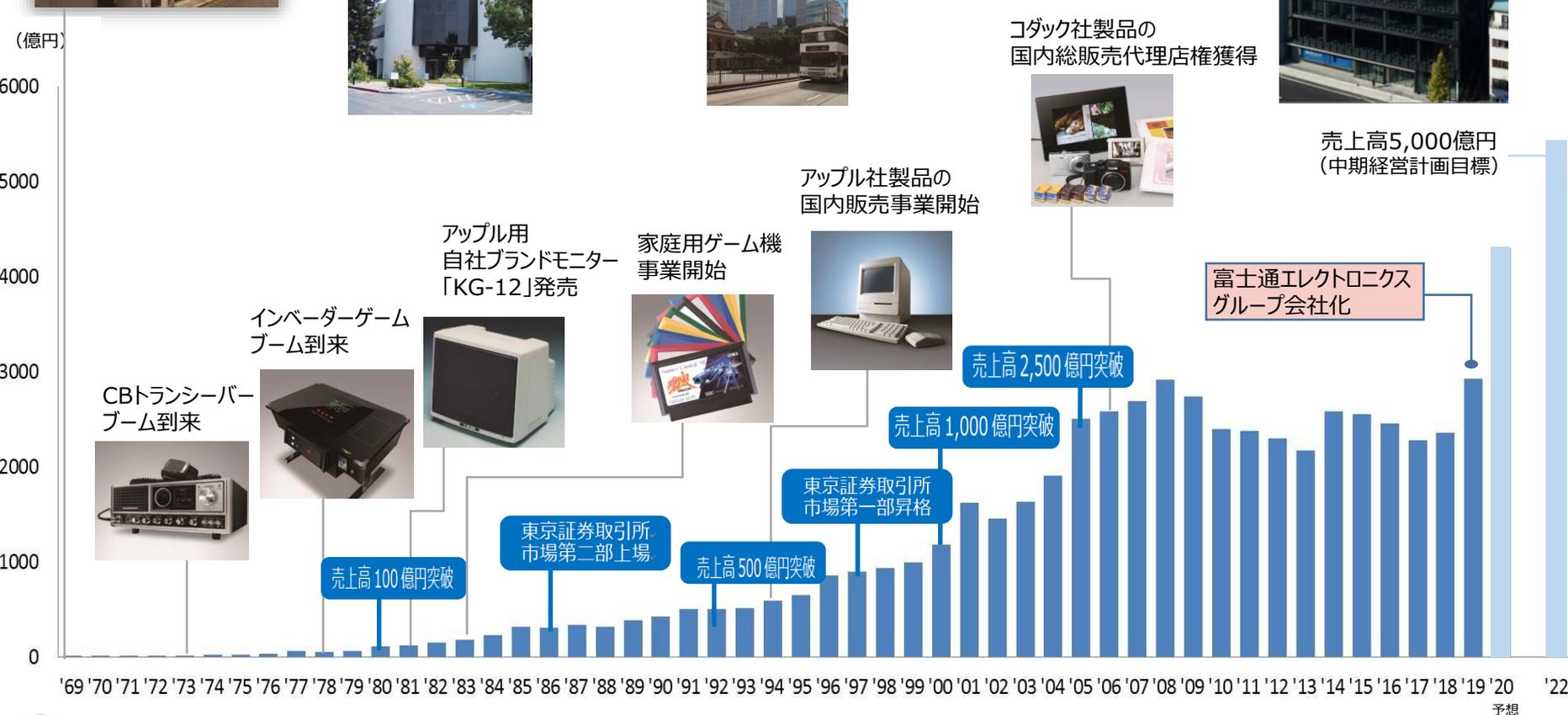
家庭用ゲーム機
事業開始



インベーダーゲーム
ブーム到来



CBトランシーバー
ブーム到来



加賀電子グループの事業領域

電子部品・半導体ビジネス



国内外のお客様へ、一般電子部品・半導体等の販売代理店活動

EMSビジネス



完成品から半完成品まで設計開発製造のトータルサポートを実施

情報機器ビジネス



PCや周辺機器を国内外の流通チャンネルに供給、及びネットワークソリューション分野への対応

ニュービジネス



アミューズメントに関する製品・ソフト開発及び製造販売およびゴルフ用品販売事業ほか

富士通エレクトロニクス買収の概要

スキーム	<ul style="list-style-type: none">・ 富士通セミコンダクターより富士通エレクトロニクス株式70%を取得し子会社化。今後、段階的に取得し2022年1月に完全子会社化
株式譲渡 実行の予定	<ul style="list-style-type: none">・ 第一段階：2019年1月（70%）・ 第二段階：2020年12月（15%）・ 第三段階：2021年12月（15%）
取得価格	<ul style="list-style-type: none">・ 総額205億円（見込総額、アドバイザリー費用等含む）
買収効果	<ul style="list-style-type: none">① 電子部品・半導体ビジネスのシェア拡大<ul style="list-style-type: none">・ 両社が持つ取扱い商材、販売チャネルを相互補完し、電子部品・半導体ビジネスのシェア拡大を目指す。② EMSビジネスの事業規模拡大<ul style="list-style-type: none">・ グローバルに展開する加賀電子のEMSサービスを富士通エレクトロニクスが持つ優良な顧客基盤にも提供、EMSビジネスの飛躍的な成長を実現する。③ 経営効率の更なる向上<ul style="list-style-type: none">・ 販売関連組織、各種機能の最適化・相互活用で収益性向上を図る。

富士通エレクトロニクス連結化の通年寄与で、**2020年3月期は業界第2位へ**

(単位：億円)

2019年3月期実績

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,242
2	丸文	3,267
3	加賀電子	2,928
4	リョーサン	2,497
5	シークス	2,428
6	菱電商事	2,403
7	トーメンデバイス	2,176
8	UKCホールディングス	2,058
9	エレマテック	1,834
10	立花エレテック	1,829

2020年3月期予想

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,400
2	加賀電子	4,300
3	レスター	4,100
4	丸文	2,915
5	シークス	2,440
6	リョーサン	2,350
7	菱電商事	2,336
8	トーメンデバイス	2,100
9	エレマテック	2,010
10	立花エレテック	1,830

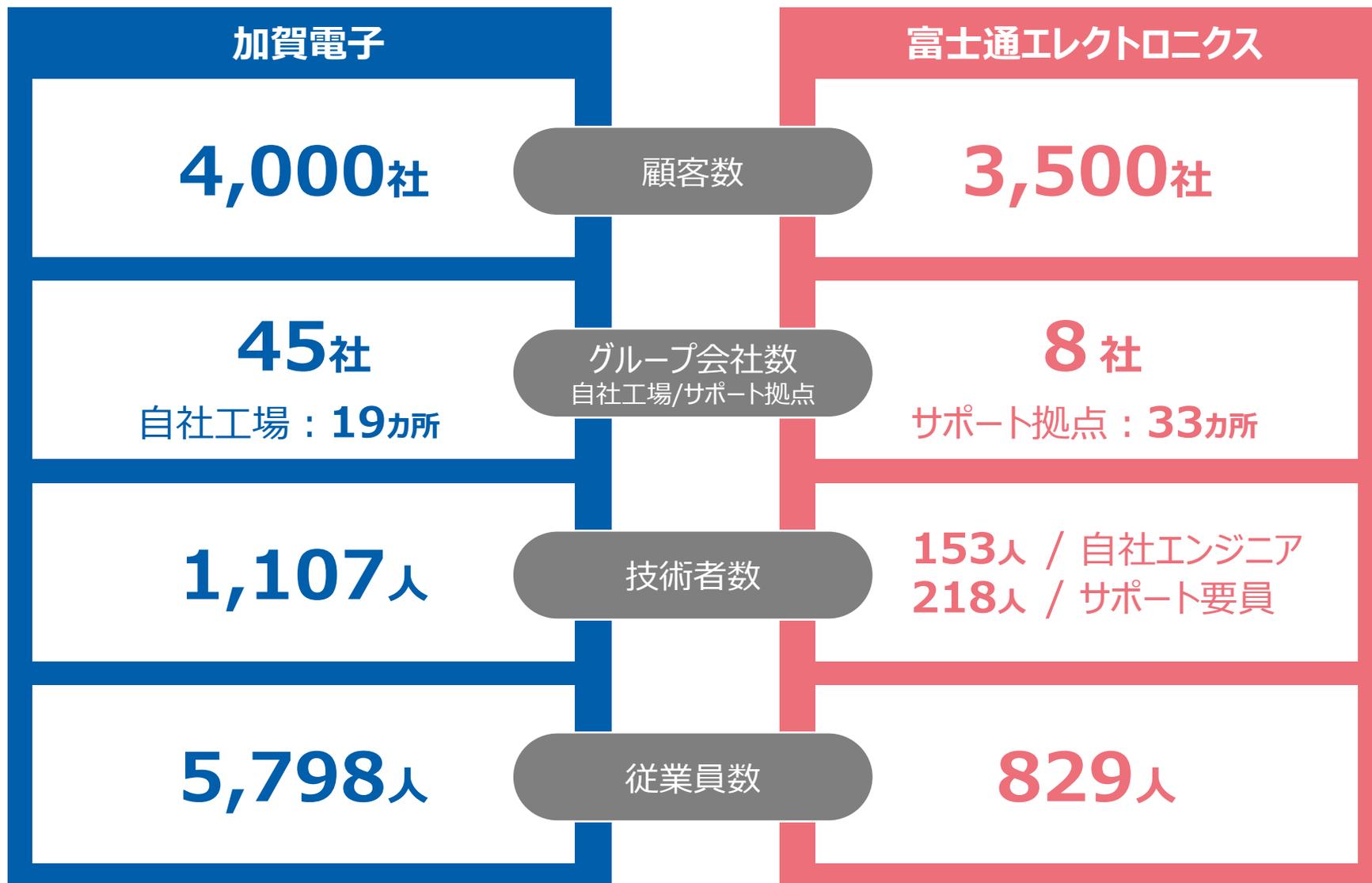
注：調査対象は上場企業

シークスは12月決算、他社は3月期決算

レスターは、UKCホールディングスとバイテックホールディングスの経営統合により2019年4月1日より発足

データの出所：当社調べ

加賀電子グループの強み-①：アセット



加賀電子グループの強み-②：グローバル

10ヶ国/19拠点に展開するEMSグローバル生産体制で、顧客ニーズに迅速目つ柔軟に対応

- チェコに実装設備を設置、欧州での受注開始
- トルコにも進出、欧州事業を強化
- 中国ローカル企業との取引拡大
- 欧米企業との取引拡大
- 中国内販売を行う日系企業との取引拡大

- EMS拡大
- 部品キットング拡販
- 新規顧客開拓

- 中国生産からメキシコ生産へシフト
- シカゴにセールスオフィスを開設し、営業活動を強化

欧州

中国・アジア

日本

米州

アセアン

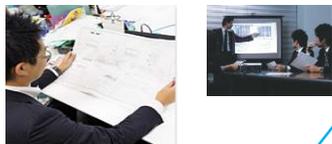
- 日系顧客へのさらなる深掘り
- 中国からの生産移管に対応

● 営業拠点 ● 製造拠点

加賀電子グループの強み-③：ワンストップ

製造受託に留まらず、販売・販売後サポートまでワンストップで対応できるグループ総合力

企画・開発・設計



部品調達・キitting



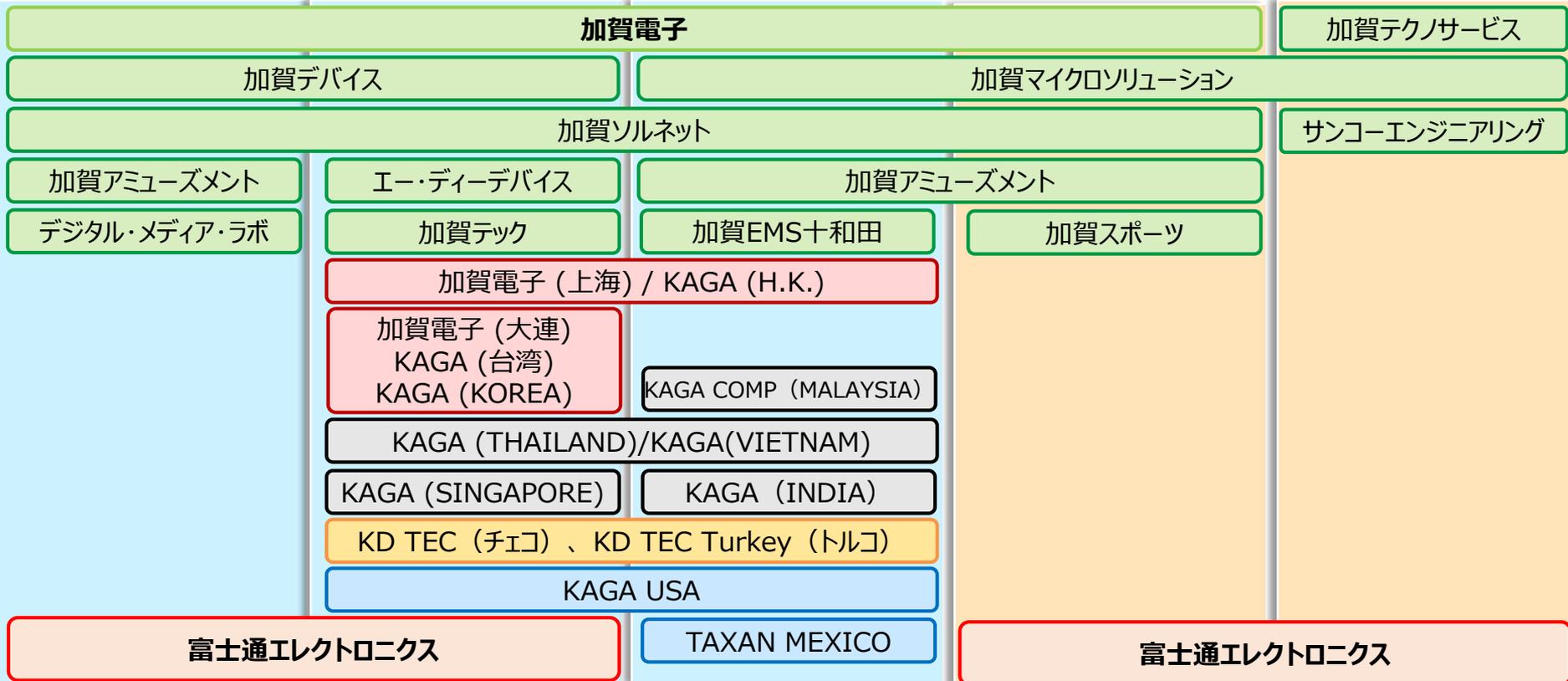
EMS・製造受託



販売・ディストリビューション



サポート・アフターサービス



中期経営計画 2021 (2019 - 2021)

アウトライン

(2018年11月6日公表)

「利益重視の経営」の確立・定着を通して

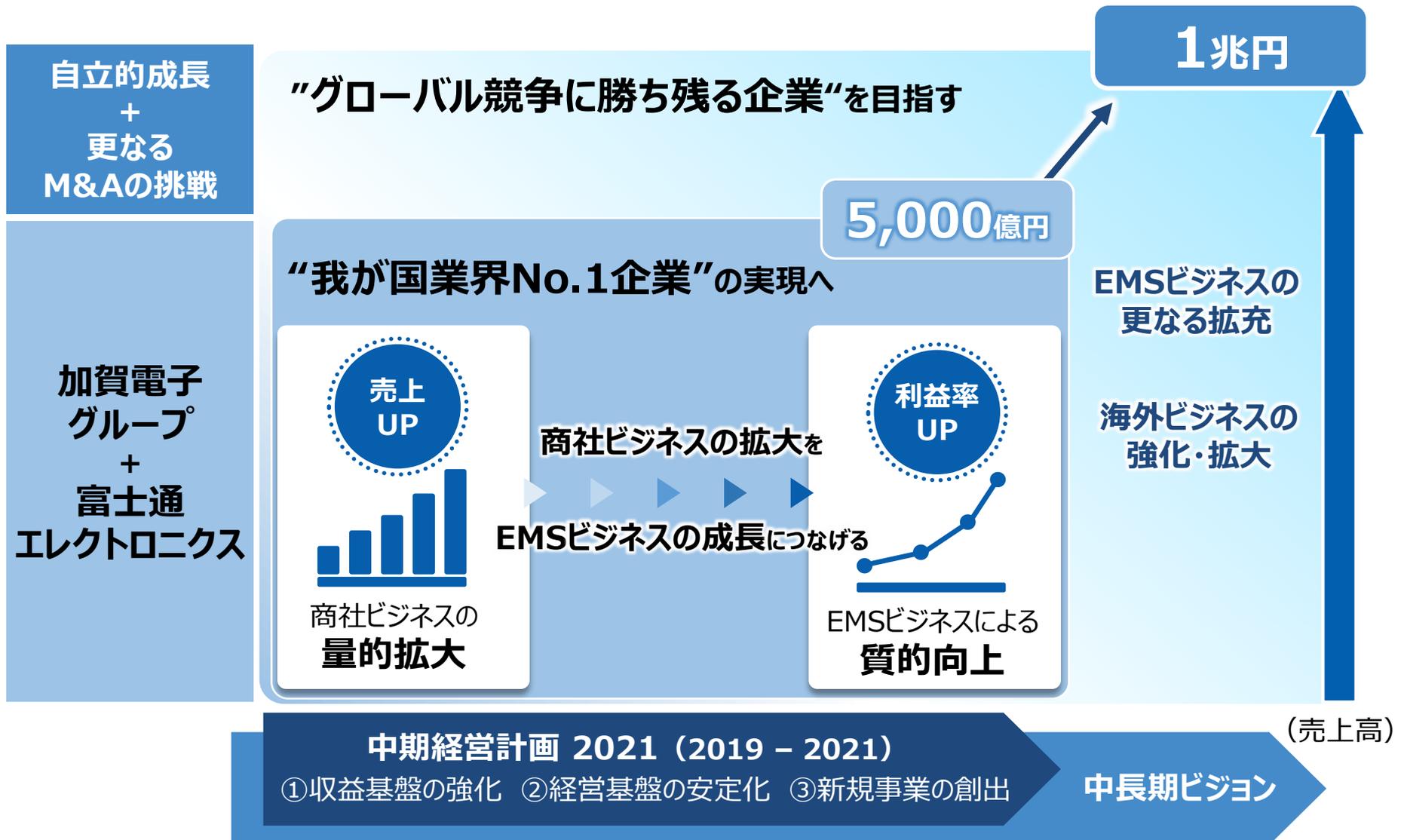


“我が国業界No.1”の企業グループを形成し



更には、
“グローバル競争に勝ち残る企業”を目指す。

「中期経営計画 2021 (2019 - 2021)」 の位置付け



重点課題

1 収益基盤の 強化

時流を先読みする当社グループのDNAを活かし、**高い成長性及び収益性が見込める市場に注力**、収益基盤の強化を図る

- ・成長分野への取組み強化：「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」
- ・EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大

2 経営基盤の 安定化

富士通エレクトロニクスのグループ会社化後の**効率性・財務健全性の早期改善**に向けて経営基盤の安定化を図る

- ・グループ横断的なコスト削減施策の継続
- ・組織体制整備によるグループ経営の効率化推進
- ・コーポレートガバナンスの強化、次代を担う人財の育成

3 新規事業の 創出

外的環境変化への耐性強化のため、自社リソース及びM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図る

- ・「社会課題（保育、福祉、介護、等）ビジネス」、「素材ビジネス」への取組み
- ・ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進
- ・M&Aの積極的な活用

「中期経営計画 2021（2019 - 2021）」 経営目標

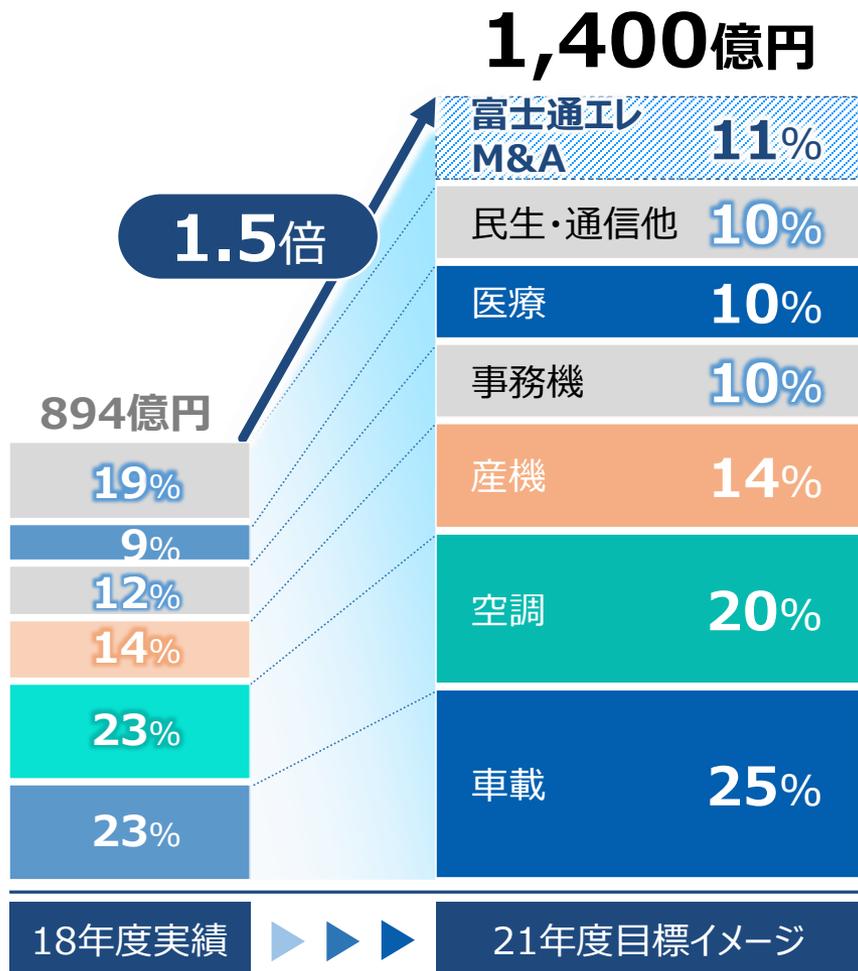
	2018年度 実績	2019年度 予想	2021年度 経営目標
売上高	2,928億円	4,420億円	5,000億円
営業利益	76億円	90億円	130億円
ROE	10.9%	6.4%	8.0%以上

為替レート

・ 計画の前提： US\$1.00 = ¥110

<参考> EMSビジネスの成長シナリオ

「車載」「産業機械」「空調」医療・ヘルスケア」を成長ドライバーに、18年度比1.5倍の事業規模へと非連続な拡大を目指す



ポイント



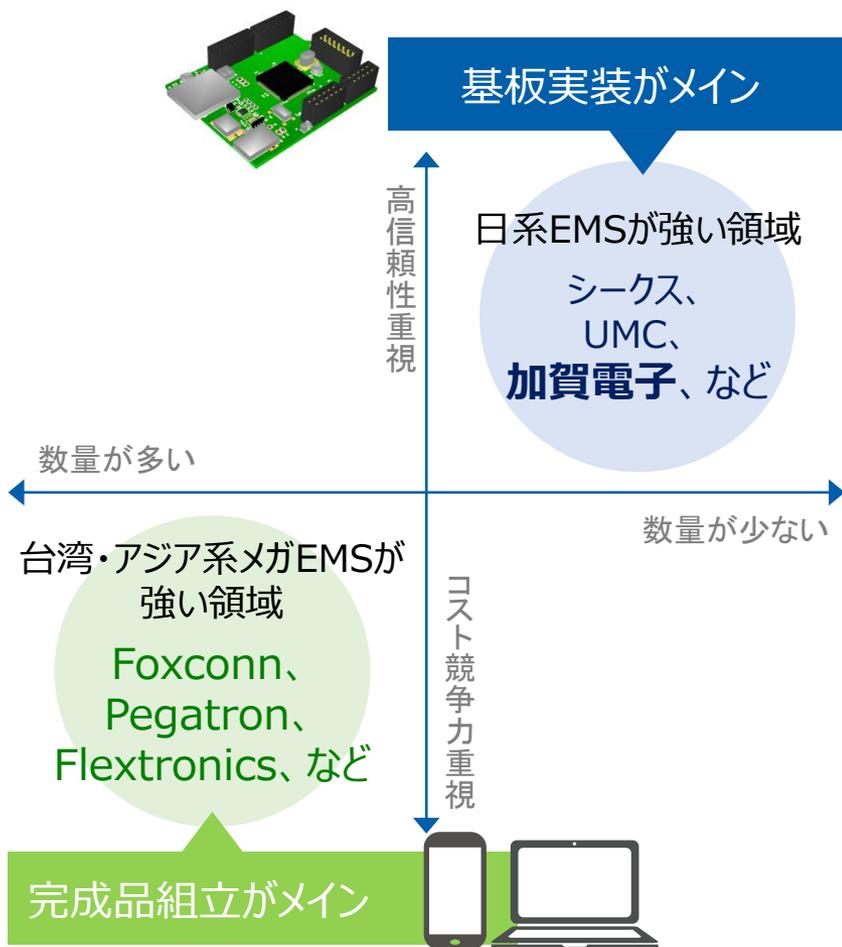
- 中国・アセアン・欧州での既存生産能力に加え、新設のベトナム・メキシコ・トルコ・インド各拠点の本格寄与により、「車載」「産機」「空調」「医療」の成長分野で事業拡大。
- 富士通エレクトロニクスが持つ有力顧客に対して、「キーデバイス+EMS」のアプローチを展開する。
- EMSビジネスの更なる規模拡大を目指し、国内外で新たなM&A機会に挑戦する。

加賀電子グループのEMS事業について

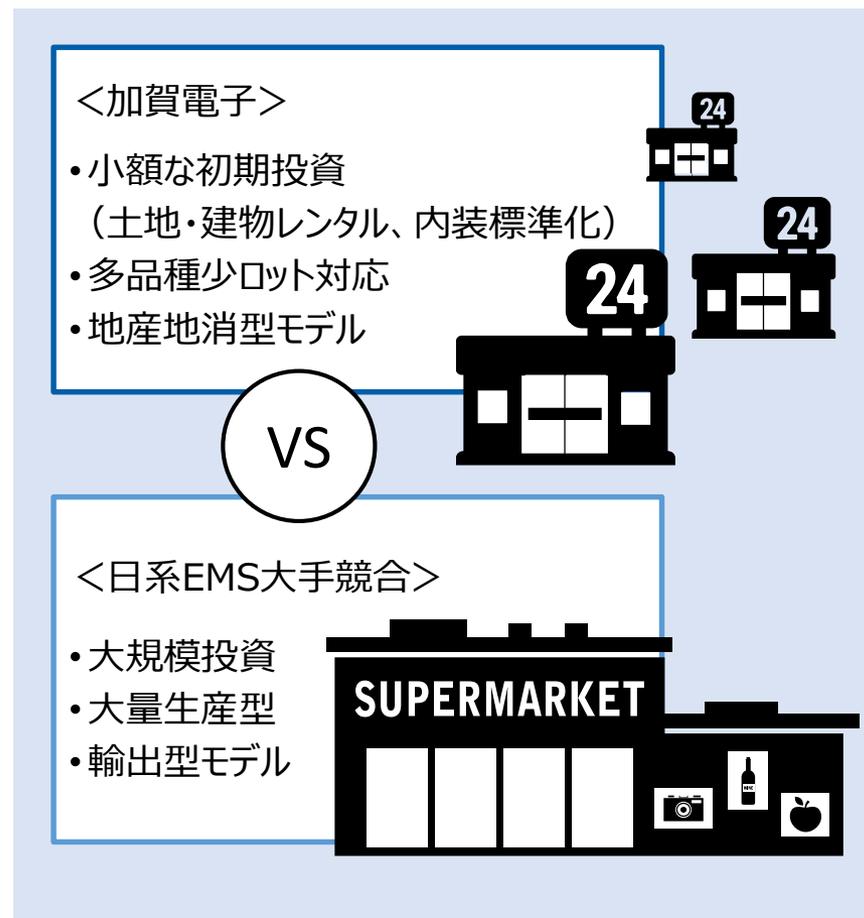
EMS事業の概要と成長戦略

加賀電子はお客様にとって便利で価値ある「コンビニ型EMS」をグローバルに展開

日系EMS vs 台湾・アジア系EMS



コンビニ型EMS vs GMS型EMS



主要生産拠点のご紹介：中国

港加賀電子（深圳）有限公司

設立 1999年

従業員数 950名

生產品目 車載関連製品、産業機器、事務機器、
アミューズメント機器、通信機器



<深圳工場>

加賀沢山電子（蘇州）有限公司

設立 2009年

従業員数 360名

生產品目 車載関連製品、医療機器、産業機器、
住設関連製品、電子楽器、通信機器



<蘇州第1工場（輸出用）>

主要生産拠点のご紹介：アセアン

KAGA ELECTRONICS (THAILAND)

設立 2002年

従業員数 690名

生産品目 車載関連製品、事務機器、空調機器、産業機器

KAGA ELECTRONICS (VIETNAM)

設立 2017年

従業員数 120名

生産品目 車載関連製品、空調機器、事務機器、医療機器



<タイ第1工場>



<ベトナム工場>

主要生産拠点のご紹介：欧州・米州

KD TEC

設立 2009年

従業員数 120名

生產品目 空調機器



<チエコ工場>

TAXAN MEXICO

設立 2017年

従業員数 160名

生產品目 車載関連製品、事務機器、産業機器



<メキシコ工場>

主な生產品目：各種基板・ユニット

事務機器用基板



車載用照明ユニット



空調機器ユニット



FA機器タッチパネルモニター



主な生產品目：各種完成品

車載関連製品



<カーナビゲーション>

医療関連機器



<薬保管キャビネット>

富士通エレクトロニクスが持つ欧米有力顧客のEMSシフトに併行して、「ボリューム」「クオリティ」「コスト」を強化し、事業競争力を総合的に高める。



生産能力の増強

- 米中貿易問題長期化に伴う“中国からの生産移管”の動き、為替変動や人件費高騰を回避する製造業の“国内生産回帰”に動きに機動的に対応する。



エンジニアリング力の強化

- 汎用設備に依存せず、自社内エンジニアリング力を活用して、“コンビニ型EMS”に最適コストの生産設備を自社開発することにより、コスト競争力を高める。



ものづくり力の強化

- 十和田パイオニアの買収により、エレクトロニクス専門メーカーとして長年培ってきた同社の「ものづくり」のノウハウ、優秀な生産系人財と生産設備、治具設計、品質保証体系などリソースを共有することで、EMSビジネスの品質レベルの一層の向上、競合他社との競争優位性を強化する。
- 十和田パイオニア、福島新工場を“マザー工場”と位置付け、海外拠点との連携、全体最適化を推し進め、経営体質の強化と事業効率の向上を図る。

具体的なアクション

十和田パイオニアの買収



- ・会社名：加賀EMS十和田株式会社
(青森県十和田市)
- ・事業内容：車載用電子機器、医療機器の基板実装および完成品組立て
- ・買収スキーム：2019年10月1日付でパイオニア(株)より十和田パイオニア(株)の株式を取得しグループ会社化。
- ・従業員数：165人(正社員)
- ・取得金額：非開示

アマタナコン第2工場



- ・会社名：KAGA ELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD.
アマタナコン第2工場
(タイ国チョンブリー県
アマタナコン工業団地内)
- ・稼働予定：2019年12月
- ・事業内容：複合機、プリンタ、車載関連製品の基板実装
- ・従業員数：200人(最大350人)

福島事業所



- ・会社名：加賀マイクロソリューション株式会社 福島事業所
(福島県須賀川市)
- ・稼働日：2019年10月
- ・事業内容：通信機器、PCおよびPC周辺機器の製造、修理、リユース・リサイクル
- ・従業員数：50人(正社員)
- ・投資額：約12億円
(土地取得、建屋・機械設備含む)

中国合弁事業(生産設備の自社開発)



- ・会社名：蘇州路遠加賀実装技術開発有限公司
(中国江蘇省蘇州市)
- ・事業内容：基板実装設備一式の開発・製造・外販
(2019年12月より営業開始)
- ・目的：
・「多品種少量生産」に最適な「自動化設備」を自社開発
- ・初期導入費用の大幅抑制だけでなく、高品質・低コストオペレーションの実現

加賀電子のCSR・株主還元

LPGA新人戦「加賀電子カップ」

本大会は、プロテストに合格した新人選手のみが出場する、トッププロになるための登竜門的な大会。当社は1996年以来、特別協賛を続けています。歴代優勝者としては、不動祐理、横峯さくら、上田桃子、などトッププロを輩出しています。



ハママツ・ジャズ・ウィーク

静岡県浜松市で1992年から開催されている地域文化イベント。「ジャズ」をテーマに多くのファンに親しまれています。浜松市に営業拠点を設置しているご縁もあり協賛しています。



金沢マラソン

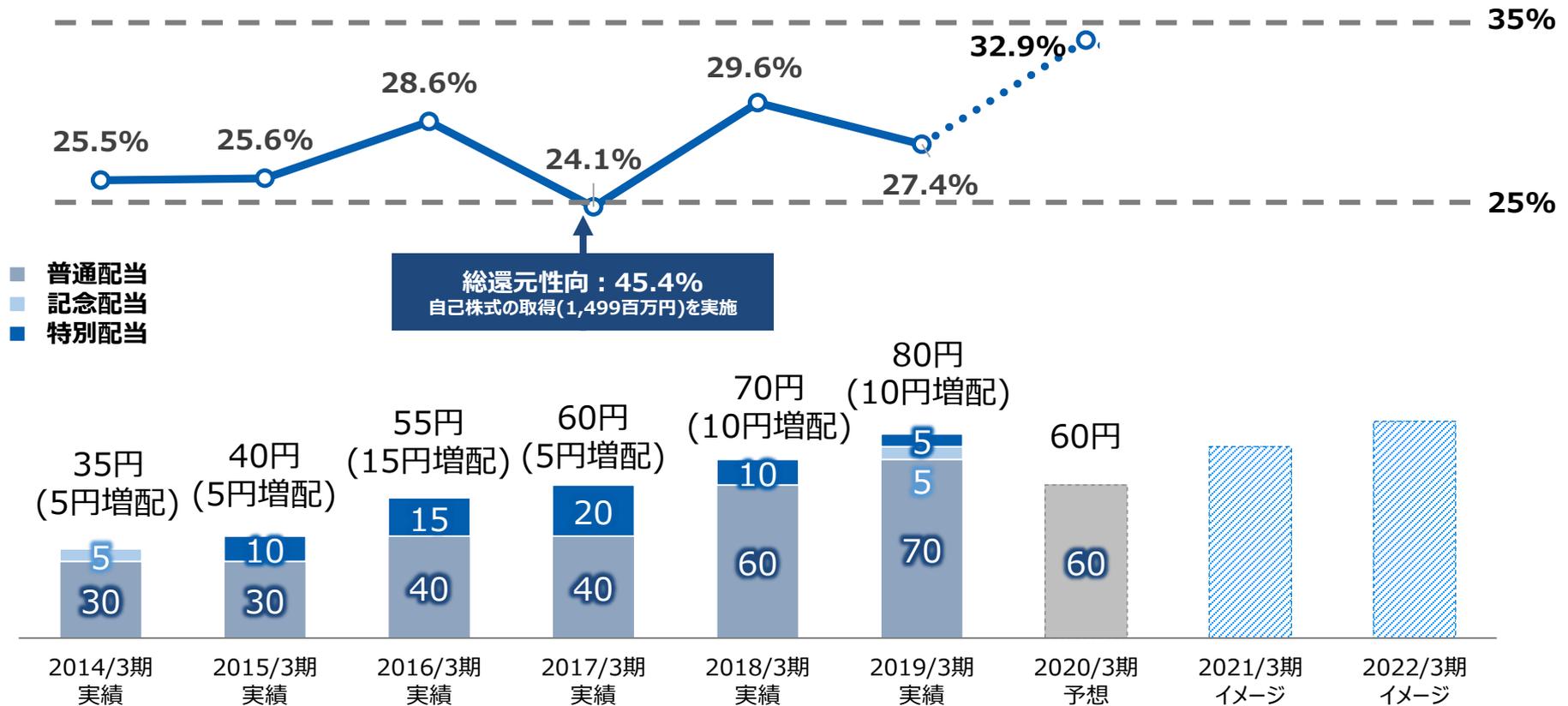
2015年の北陸新幹線開業に合わせて開催された市民参加型のマラソン大会。金沢は創業者の出身地であり、社名の由来となる縁の深い土地でもあることから、当社は初回より協賛しています。



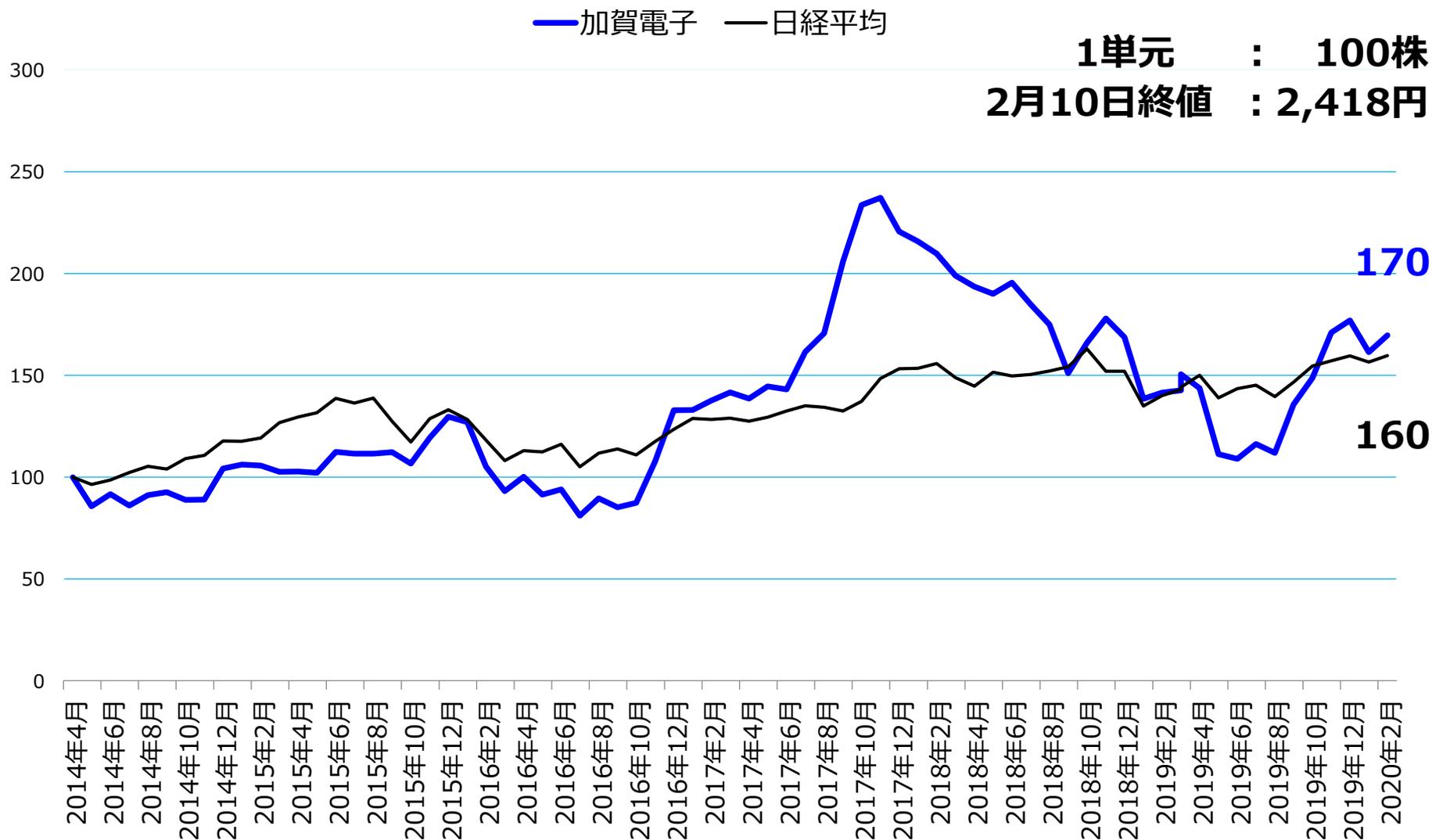
株主還元の方

利益配分に関する基本方針

- 連結配当性向25～35%を確保しつつ、安定的な配当を実施する。
- 将来成長に資する事業投資・設備投資、M&A等に活用する。
- 自己株式の取得は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する。



株価推移



参考データ

2020年3月期 第3四半期実績

- 上期に続き、会社計画に対して上振れ基調の良好な収益 Momentum。
- 売上高は、富士通エレクトロニクスのグループ会社化が寄与し、ほぼ倍増。
- 営業利益・経常利益は、買収効果と堅調な電子部品事業が牽引し、最高益。

電子部品事業の 概況

- EMSビジネスは、医療機器、車載関連向けを中心に増収。
- 部品販売ビジネスは、車載向けや民生向けにLEDモジュール等が順調。富士通エレクトロニクスからは、携帯電話、車載向けなどがグループ業績に寄与。

情報機器事業の 概況

- パソコン販売は、個人および学校・教育機関向けが牽引し、増収。
- LED設置ビジネスは、大口顧客の置換需要が一巡。住宅向け家電販売は、客先都合の納期調整の影響が続き、減収。

通期見通し

- 3Qまでの順調な進捗を踏まえ、売上高・営業利益・経常利益を上方修正。営業利益・経常利益は、従来の減益予想から「増益予想」へ好転。
- 当期純利益は、構造改革関連の費用計上などを見込み、期初予想を据置き。

2020年3月期第3四半期 業績ハイライト（9ヵ月累計）

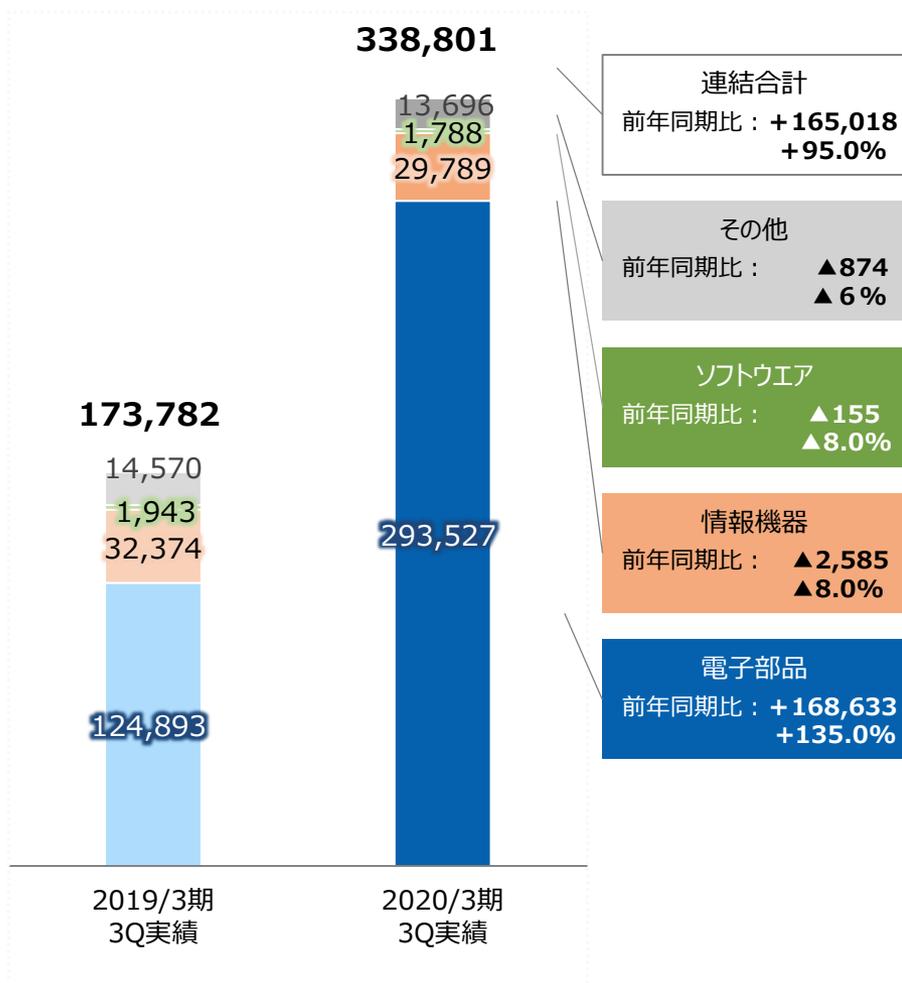
（単位：百万円）

	2019/3期 Q3実績	2020/3期 Q3実績	前年同期比
売上高	173,782	338,801	95.0%
売上総利益	24,023	35,245	46.7%
同利益率（%）	13.8%	10.4%	▲3.4pt
販売費及び一般管理費	18,275	27,513	50.6%
営業利益	5,748	7,732	34.5%
経常利益	6,000	7,975	32.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,875	4,924	1.0%
EPS（1株当たり四半期純利益）（円）	177.69	179.43	1.74
為替レート 米ドル（円）	111.14	108.67	2.47

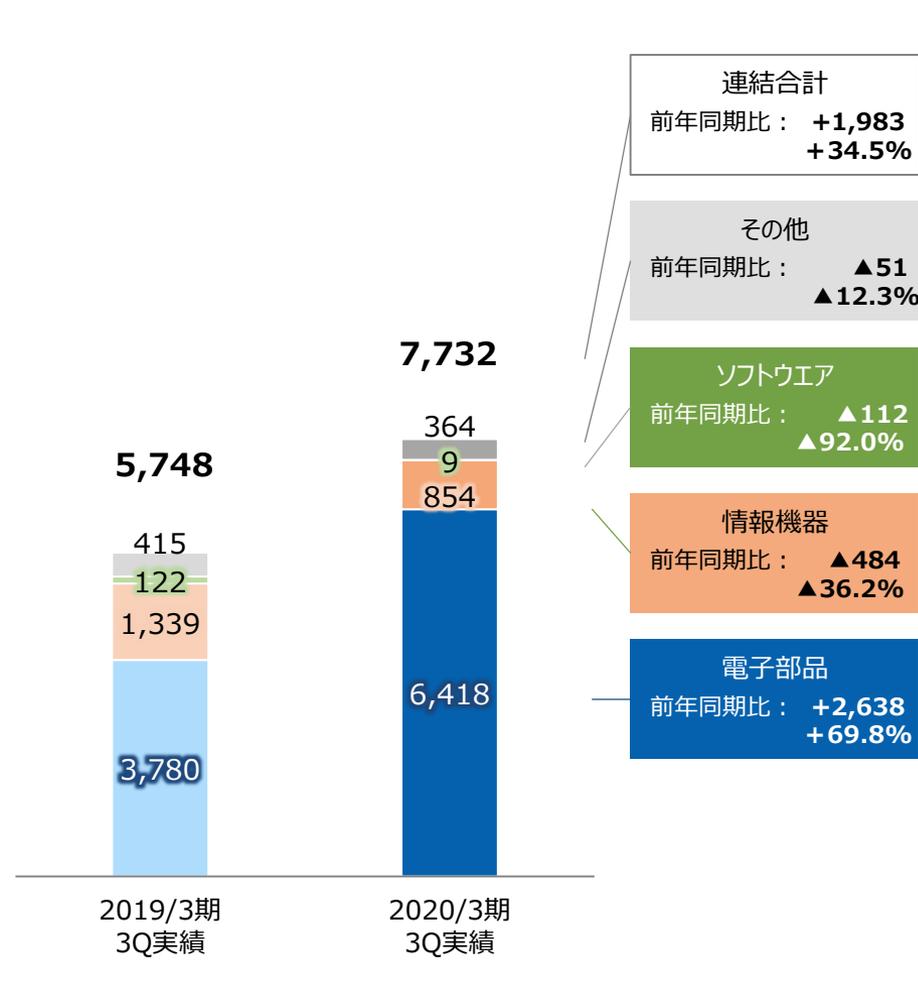
2020年3月期第3四半期業績 事業部門別（9ヵ月累計）

(単位：百万円)

売上高



営業利益（セグメント利益）



注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2020年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2019/3期	2020/3期		増減
	実績	前回予想	今回予想	
売上高	292,779	430,000	442,000	2.8%
売上総利益	35,546	46,500	47,000	1.1%
同利益率 (%)	12.1%	10.8%	10.6%	▲0.2pt
販売費及び一般管理費	27,976	39,500	38,000	▲3.8%
営業利益	7,570	7,000	9,000	28.6%
経常利益	7,859	7,000	9,000	28.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,014	5,000	5,000	—
EPS (1株当たり当期純利益)	292.07	182.17	182.17	—
ROE	10.9%	6.4%	6.4%	—

<参考>2020年3月期 中計セグメント別通期業績予想

(単位：百万円)

		2019/3期	2020/3期	
		実績	前回予想	今回予想
電子部品	売上高	145,042	282,000	290,000
	セグメント利益	2,278	2,200	4,000
EMS	売上高	89,481	95,000	100,000
	セグメント利益	2,667	2,800	3,500
CSI	売上高	44,344	40,000	39,000
	セグメント利益	1,906	1,500	1,000
その他	売上高	13,912	13,000	13,000
	セグメント利益	554	500	500
合計	売上高	292,779	430,000	442,000
	セグメント利益	7,570	7,000	9,000

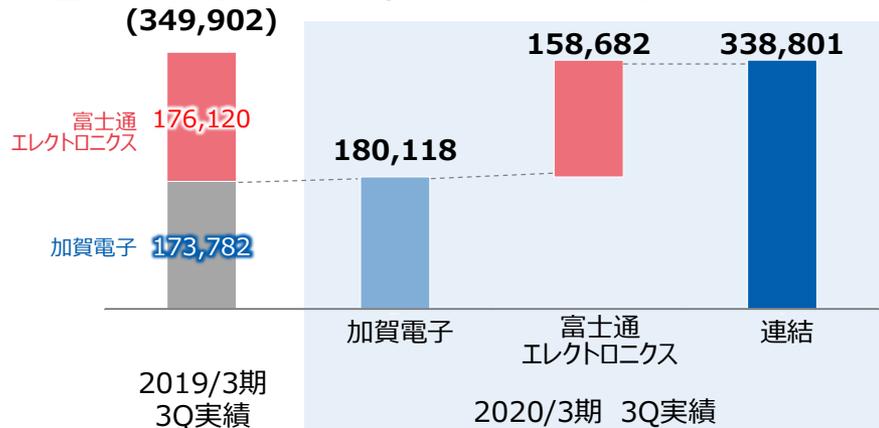
注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2020年3月期第3四半期業績：加賀電子/富士通エレクトロニクスの内訳

※単位：百万円、（ ）内は単純合算。富士通エレクトロニクスの前期実績は非開示のため参考値

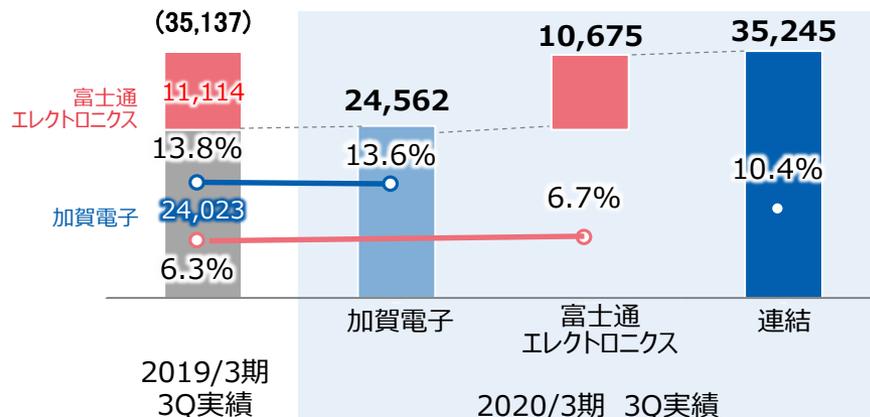
売上高

富士通エレクトロニクスが連結寄与、加賀電子はEMSが増収牽引



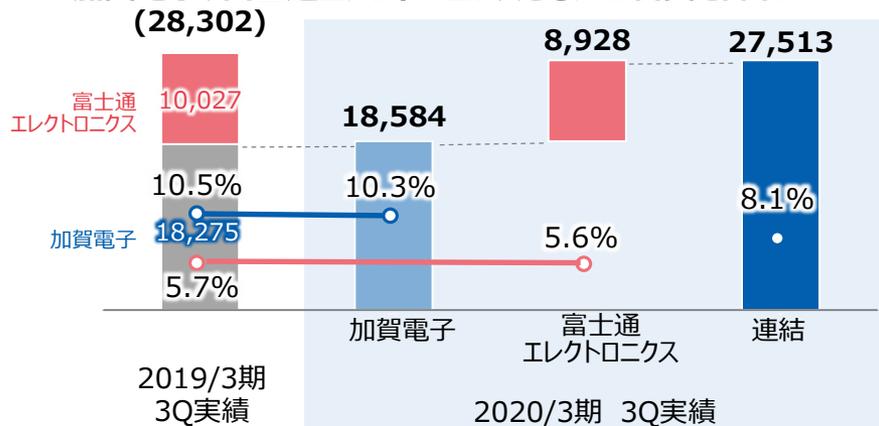
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子は粗利増益、富士通エレクトロニクスは粗利率が改善



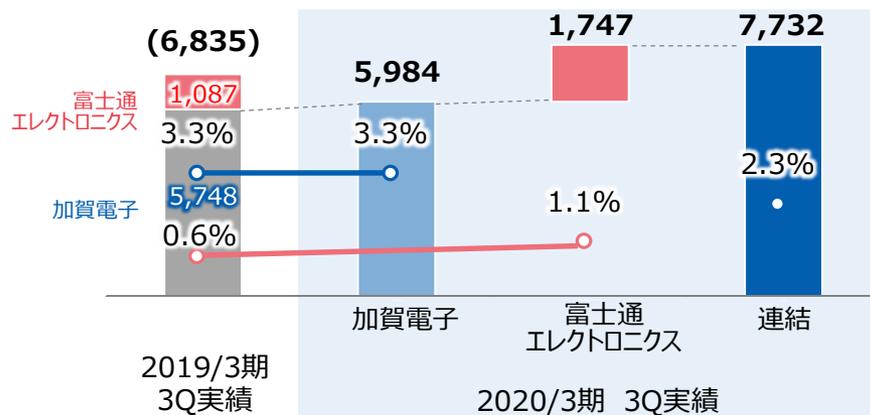
販管費 / 販管費率

加賀電子、富士通エレクトロニクスともに販管費を抑制



営業利益 / 営業利益率

加賀電子、富士通エレクトロニクスともに増益を確保

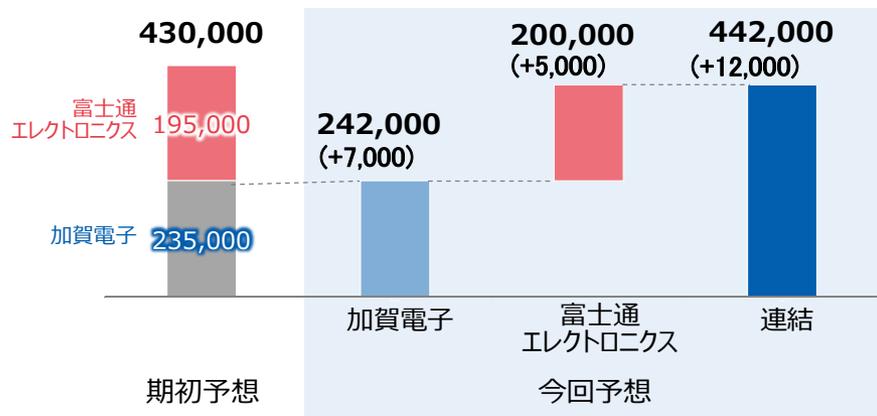


2020年3月期業績予想：加賀電子/富士通エレクトロニクスの内訳

※単位：百万円

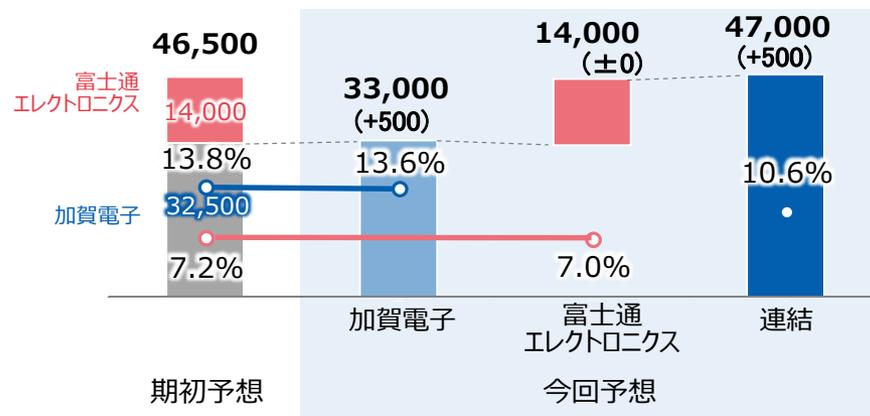
売上高

医療機器、車載関連向けが堅調に推移、両社とも期初予想を上回る



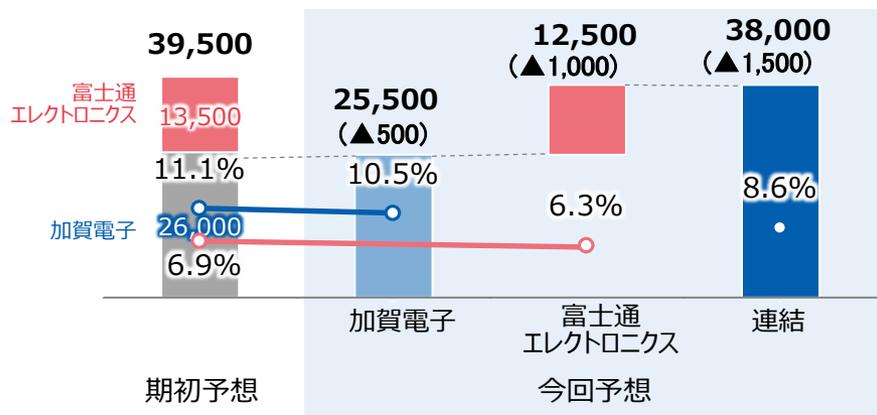
売上総利益 / 売上総利益率

期初予想並みの利益率確保、売上増に伴い利益増見込む



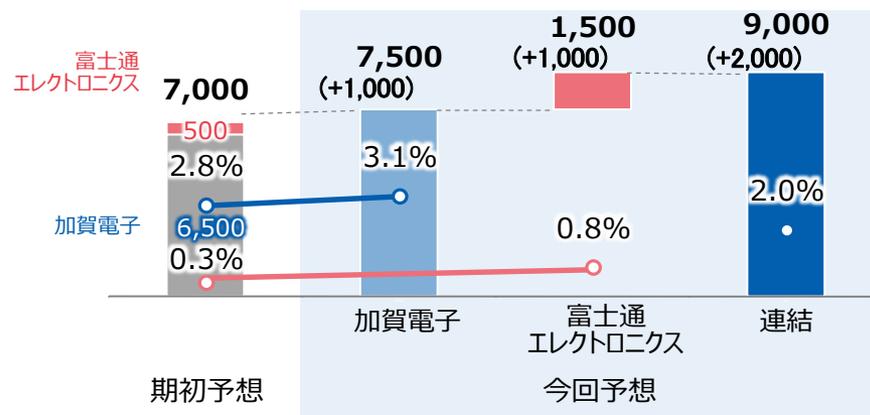
販管費 / 販管費率

環境変化を見据え、人件費中心に経費コントロール効かす



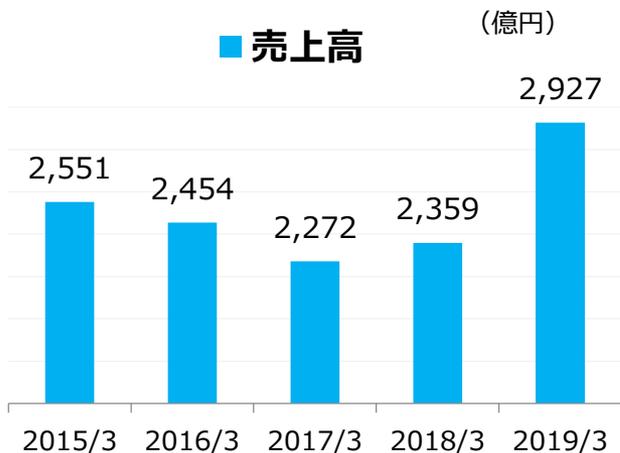
営業利益 / 営業利益率

両社ともに期初予想を上回る利益創出、最高益更新を目指す

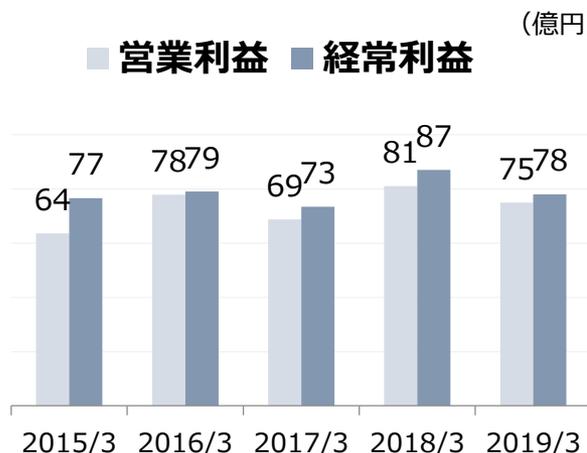


業績ハイライト：過去5年

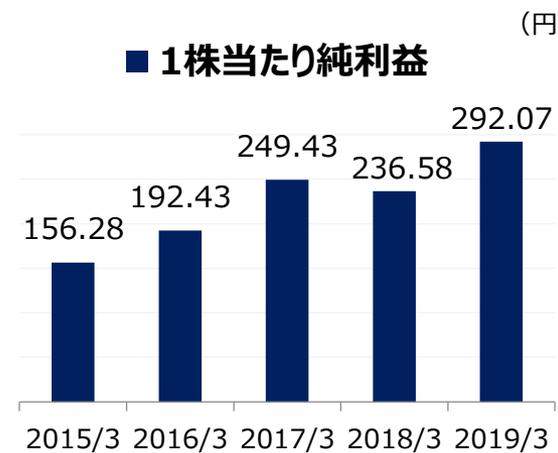
■ 売上高 (億円)



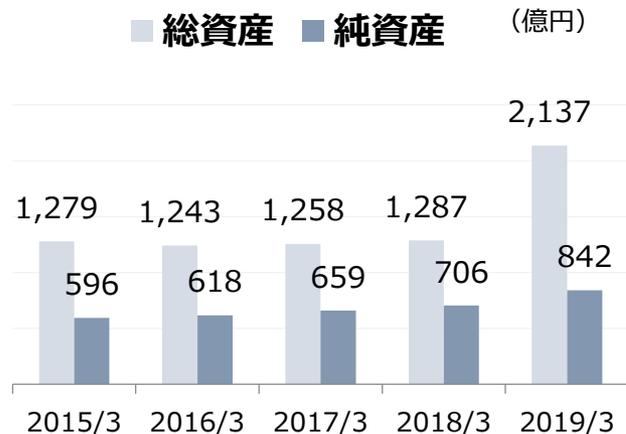
■ 営業利益 ■ 経常利益 (億円)



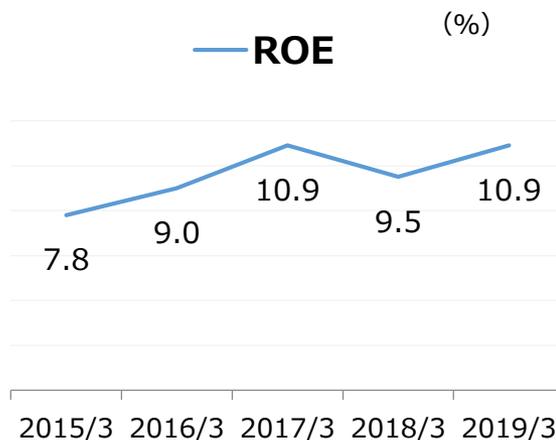
■ 1株当たり純利益 (円)



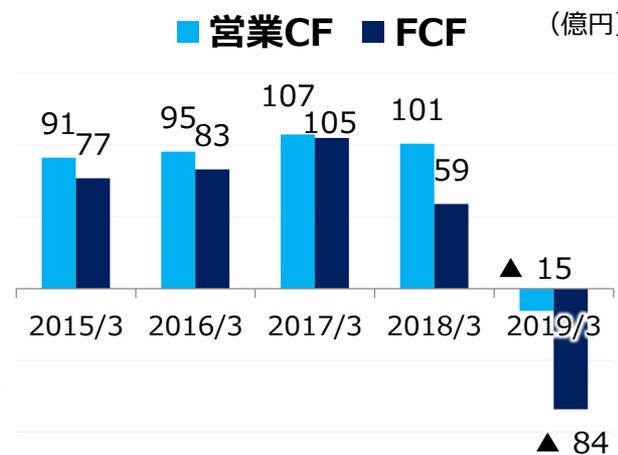
■ 総資産 ■ 純資産 (億円)



— ROE (%)

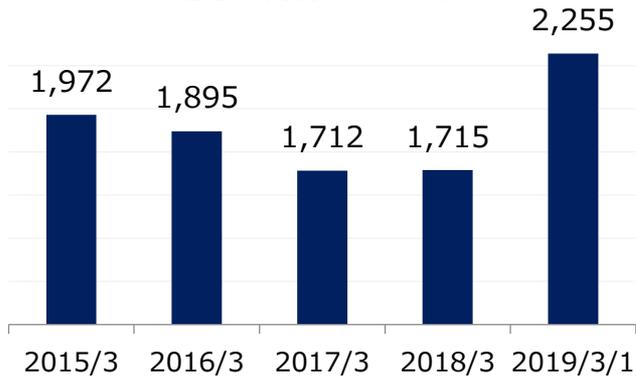


■ 営業CF ■ FCF (億円)

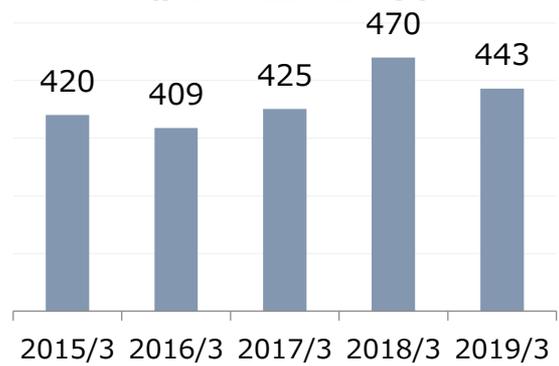


セグメント別業績：過去5年

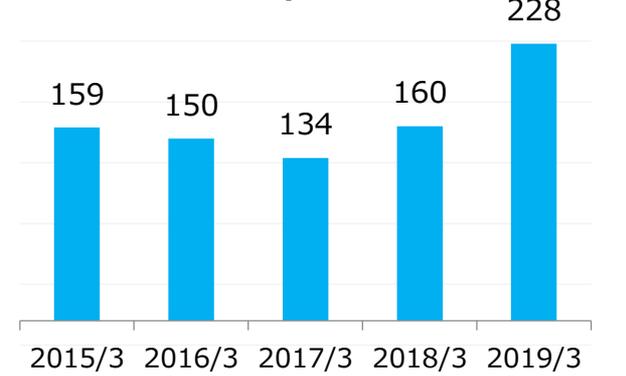
■ 電子部品・売上高 (億円)



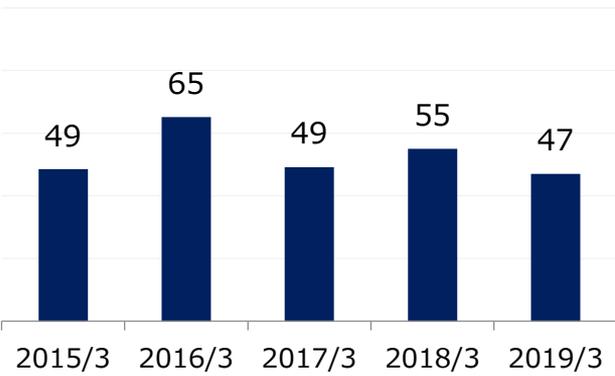
■ 情報機器・売上高 (億円)



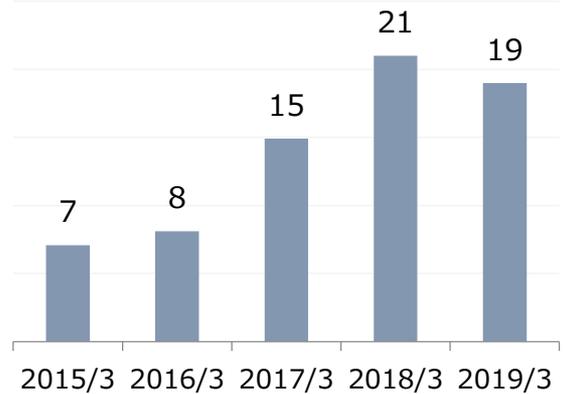
■ ソフトウェア・/その他・売上高 (億円)



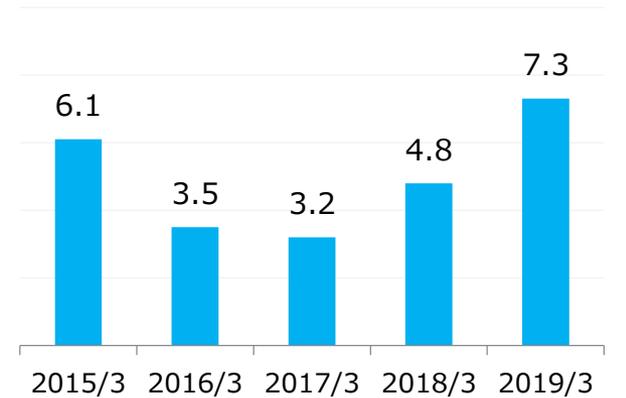
■ 電子部品・営業利益 (億円)



■ 情報機器・営業利益 (億円)

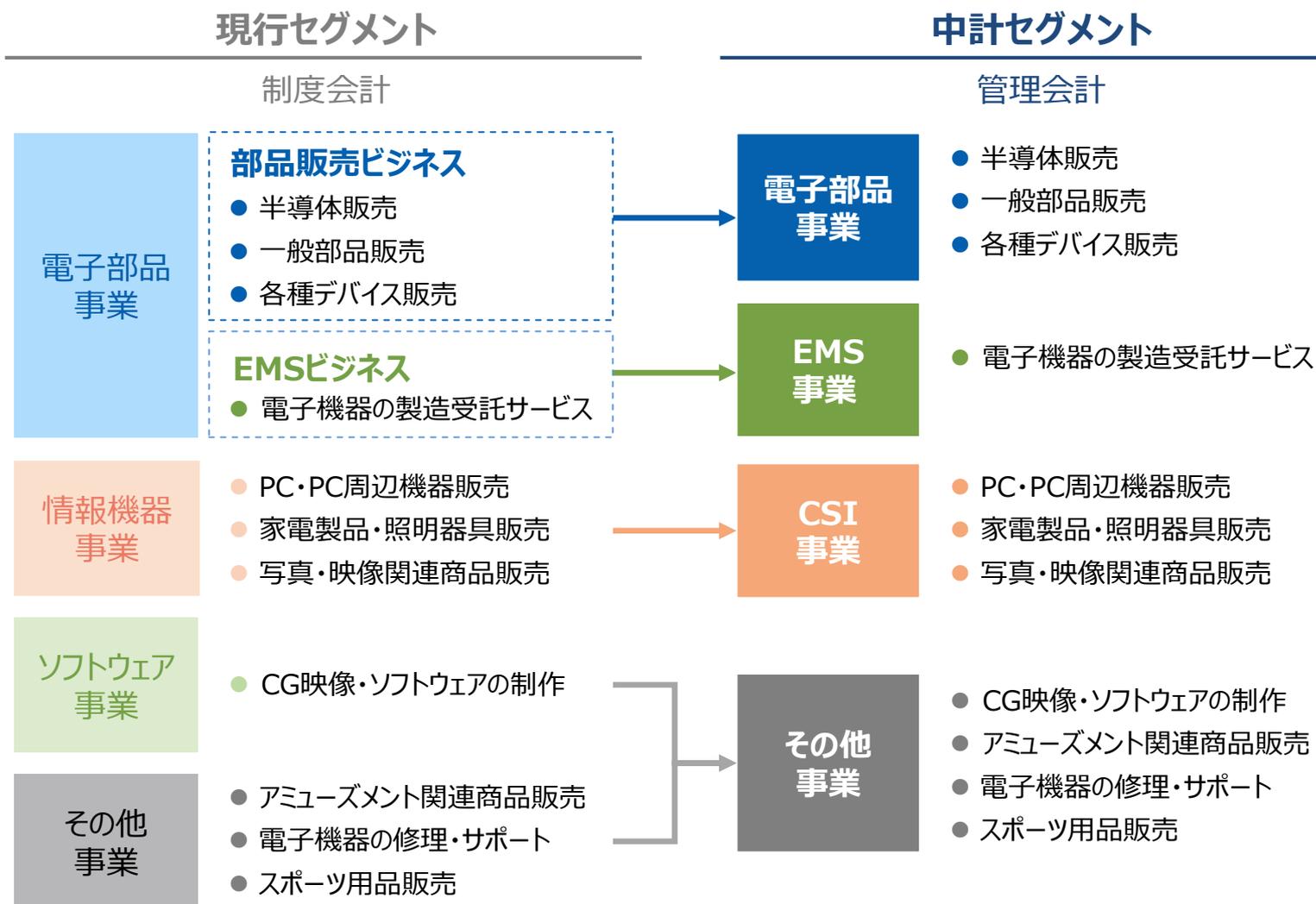


■ ソフトウェア/その他・営業利益 (億円)



新中計スタートに伴うセグメント開示に関して

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



新セグメント別取扱商品・サービス

電子部品事業	<ul style="list-style-type: none">• 半導体(汎用品・カスタム品)の販売• 一般部品(コンデンサ、コネクタ、ケーブル、スイッチなど)の販売• LCD、LED、各種デバイスの販売、など
EMS事業 (Electronics Manufacturing Service)	<ul style="list-style-type: none">• 各種電子機器の製造受託(電装基板実装～完成品組立)サービス、及びそれに伴う設計、開発
CSI事業 (Consumer & System Integration)	<ul style="list-style-type: none">• パソコン及びPC周辺機器の販売• 各種家電製品・照明器具、写真・映像関連商品の販売、など
その他事業	<ul style="list-style-type: none">• 各種CG映像、ソフトウェア制作• アミューズメント関連商品の企画・開発・製造・販売• エレクトロニクス機器の修理・サポート• スポーツ用品の卸・小売り、など

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入